

当協会と韓国・水原市国際交流センターは、平成25年度より日韓両国の青年交流を促進するとともに、国際的な視野を持つ人材を育成することをねらいとして、両市在住の高校生と大学生の相互派遣を行っています。このたび、静岡市の大学生10名が水原市を訪れ、世界遺産「華城」の見学やホームステイ、水原市の青年支援施設の見学などを行いました。参加学生から感想が届きましたのでご紹介します。

\*\*\*\*\*

私が今回の研修に参加した理由は、「韓国が好きだから」というよりも、「韓国を知りたいから」というものでした。私の韓国に対する興味が高まったのは、実のところほんの半年前ほどで、それまでは学校の授業で韓国の政治などを勉強することはあっても、実際に観光に行ったりすることはありませんでした。むしろ正直に言えば、あまり良い印象を持っていなかったと言えるかもしれません。きっかけは、たまたま私に一人の韓国人の友人ができた事でした。彼という等身大の韓国人と触れ合ったことによって、私の中の韓国への興味は次第に大きくなっていきました。そして「韓国はどんな国だろう」と思うようになったのです。研修前には、私は韓国に行くのは今回が初めてということで、「韓国語が喋れない自分は、ちゃんとコミュニケーションをとれるだろうか」という風に少なからず不安だった部分もありましたが、研修を終えた今では、それがまったくの杞憂であったことがわかります。その理由は、私が研修で話した韓国の方々に、日本語や英語に堪能だった方が多かったことももちろんありますが、なにより私の意図していることを、誰もが熱心に汲み取ろうとしてくれたからです。今回、研修を通して本当に色々な経験をさせていただきましたが、その中でも一番印象に残っているのは、韓国にそもそもものきっかけを持ったのがそうであるように、韓国の人々と一緒に過ごした時間です。今年の一月にJENESYSのプログラムで日本を訪れたという韓国の学生達は、飛行機の遅延によって一時間以上遅れてやってきた私達を、笑顔で迎え入れて市内を案内してくれました。



韓服を着て、華城見学（写真左が須部さん）

京畿大学の学生からサムルノリを習う研修員



交換 日韓の就職の現状について意見



京畿大の学生とのディスカッションでは、私達日本の学生の話真剣に聞いて、どんな意見でも貴重な意見だと言って評価してくれました。ホームステイでは、ホストファミリーの方々は、私のことをしきりに気にかけてくれて、最後にはメールでメッセージを頂きました。最後に、研修を通してどう成長できたのか、という問いに対して、自信を持って、即座に答えを出すことは難しいです。しかし、周りの人たちが、韓国について何か良くない話をしていると、思わず「違うよ、韓国はね…」と喋り始めて、私が韓国で見たこと、感じたこと、そして出会った人々の話をするようになりました。このことは、傍から見ればほんの小さな変化かもしれませんが、私自身は大きな変化だと感じています。（静岡県立大学3年 須部広明）

《2018年度静岡市大学生訪韓研修日程》

- 9/6（木）JENESYS2017参加学生と交流、水原市内散策
- 9/7（金）水原博物館、サムスンイノベーションミュージアム見学など
- 9/8（土）京畿大訪問（学生とディスカッション、サムルノリ体験）
- 9/9（日）『京畿想像キャンパス』見学、ホストファミリー対面式
- 9/10（月）終日ホームステイ
- 9/11（火）水原華城、青年支援施設見学
- 9/12（水）秋のお餅づくり、韓国民俗村見学
- 9/13（木）アクションプラン作成・発表
- 9/14（金）帰国